

第9回 福岡市科学館に係る指定管理者評価委員会 議事概要	
日 時	2023年11月14日(火) 17:00～19:20 場所：福岡市科学館4階 会議室2・3
出席者 (敬称略、 順不同)	委員長 伊藤 明夫 北九州市立いのちのたび博物館 元館長 副委員長 大石 桂一 九州大学経済学研究院 教授 出良 心一 公認会計士協会北部九州会 公認会計士 酒井 美佐緒 市立小学校理科研究会 校長 渡辺 亮一 福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授 [指定管理者] ※議事(2)(3)のみ出席 株式会社福岡サイエンス&クリエイティブ [事務局] 福岡市子ども未来局子ども健全育成課 香月課長、鐘ヶ江係長、興梠担当

【議事概要】

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 委員長の選出について

(2) 令和4年度の運営状況について

資料にしたがって指定管理者から説明があり、内容についてのいくつかの質疑応答が行われた。

以下、要旨をまとめる。

委員	アンケート結果は利用者満足度の把握のための重要な根拠資料となる。アンケートの回収率の向上に向けた対応を引き続き検討頂きたい。 また、アンケートについては、小学生等が回答できるような工夫は行われているか。大人の意見のみならず、小学生も含めた多様な世代からの意見が把握できるように工夫頂きたい。
指定管理者	今年度実施した景品付きアンケートの有効性や、Webアンケートの充実も含めて、アンケートの回収率向上や信頼性の確保に向けたアンケート実施方法について、継続して検討したい。
委員	福岡科学館は他の大都市と比べ基本展示室が狭い。そのマイナス面があるにも関わらず、学習支援事業を多様かつ多頻度で実施していることは評価できる。
指定管理者	子どもたちの学習支援については、サイエンスコミュニケーターが効果的な役割を担っていると考えている。

(3) 「第1次5カ年計画」に基づく管理運営に関するセルフモニタリング結果について

資料にしたがって指定管理者から説明があり、内容についてのいくつかの質疑応答が行われた。

以下、要旨をまとめる。

委員	運営方針⑦の「i) 科学館連携ネットワークを形成・推進する事業」や「ii) 科学館組織が育つための事業・活動」について、個別評価はB評価が多い中で総合評価がA評価となっている。総合評価をA評価とした理由はいかがか。
----	---

指定管理者	ネットワーク形成の連携数が目標値を大きく上回ったことを高く評価した。また、「ii) 科学館組織が育つための事業・活動」については、スタッフ・運営サポータの成長についてもA評価よりのB評価のため総合をA評価とした。
委員	基本展示室の更新について、以前から AI を活用している点は子どもたちの関心にはプラスの面もあるが、一方で、サイエンスを本当の意味で進めていくとバーチャルのみでなく、モノを触ってということも重要である。バーチャルでない世界を如何に体験させることができるのかという視点での考えはあるか。
指定管理者	今年度からサイエンスコミュニケーションシアターを新設している。どんぐりが環境を循環させるというストーリーであるが、今年度からサイエンスコミュニケーターを常駐させている。展示だけで完結させずに人を介することで展示の厚みをもたせるような取り組みを行っている。また、映像だけではなく、クイズなどの振り返りを実施することで知識の深化に繋がるように工夫している。
委員	フィールドワークをうまく活用することも有効と考える。
委員	モデル校区や、東若久小の取り組みなどをされており、現状のモデル校は2校となっているが、これを広げていく方針はあるか。
指定管理者	モデル校区のエリア等については拡大する方向で考えていきたい。
委員	全体的の評価方法として、目標値の設定の達成状況に対して、A評価やB評価で評価が分かれており、評価基準のわかりやすさには配慮することが望ましい。
指定管理者	当初は、量的な評価のみならず質的な評価もしていきたいという考えで現在の評価方法となっている。客観的な評価方法について課題があるため、第二期以降の評価はもう少しシンプルに改善したい。
委員	評価にあたって、アンケート結果を評価に活用する場合のその客観性があるかは留意した方がよい。アンケートを実施することはよいが、評価をアンケート結果のみに依存する点は再考した方がよい。

4. 指定管理者退席、評価